

1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている やや良く なっている			
		商店街（代表者）	単価の動き	・決して良いわけではないが、防寒物が早期の値下げに入ったこともあり、2～3か月前と比べると、客単価、売上とも上向いている。
		商店街（代表者）	それ以外	・年末商戦の一環として、12月10日～24日の期間で行った連合大売出しの抽選会場に、比較的多くの客が来場した。中心部の買物客だけとは判断できないが、ほぼ全店舗で売上の増加がみられた。
		百貨店（販売促進担当）	販売量の動き	・冬のボーナスの減少から、12月は厳しい商戦を見込んでいたが、当社の全国各店の売上動向をみると、前年割れながらも回復傾向にある。歳暮の動きも前年並みを確保している。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・販売量の動きをみると、3か月前からは11%の増加となっており、前年からも2%の増加となっている。今月に限っては健闘している。
		スーパー（店員）	お客様の様子	・1万円分の買物に対して5%の買物券が付く生活応援企画を実施しているが、前回以上に好評である。セット数を追加したこともあり、売上は前年比120%となり、客の囲い込みにもつながった。
		家電量販店（店長）	販売量の動き	・薄型テレビを中心としたエコポイント制度の効果と年間の最大需要期とが重なり、販売量は前年比で2けたの伸びとなっている。
		家電量販店（店員）	販売量の動き	・薄型テレビ、冷蔵庫などのエコ家電がよく売れているが単価が低下している。一方、来客数は前年を上回っている。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・エコカー人気に加えて、古い年式車両からの乗換えへの補助金制度により、これまで買い控えていたユーザーの購買意欲が喚起されている。
		高級レストラン（スタッフ）	単価の動き	・12月のランチの来客数は前年比95.7%とあと1歩のところまできている。売上も前年比109.3%と上向いている。
	通信会社（企画担当）	販売量の動き	・通信機器の冬モデルに対する注目度が高くなっている。個人向け、法人向けともにラインナップが充実しているため、市場全体の反応も良い。	
	変わらない	商店街（代表者）	販売量の動き	・クリスマスプレゼントの需要が前年から20%以上も落ち込んでおり、相変わらず厳しい状態にある。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・今年は例年にならぬほど寒さが続いたことから、若者専門店ではダウンなどの防寒物にやや活発な動きがみられたが、値引き交渉が多く、利幅は薄かった。全体的には厳しい状態が続いている。
		一般小売店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・年末ということもあり、3か月前と比べれば売上も増加しているが、そういった季節要因を除けば、ここ数か月、ほぼ横ばいで推移している。
		百貨店（売場主任）	お客様の様子	・ここ数か月、状況は大きく変わらない。買上客数が前年比98%と前年並みに近づいたものの、客単価が上がらず、売上は前年比93%となっている。食品が健闘する一方で、衣料品、雑貨が苦戦している状況も変わらず、特にアクセサリーの苦戦が目立っている。
		百貨店（役員）	単価の動き	・客単価が低下したものの、来客数が増加したことから、結果としては前年比100%弱で推移している。
		スーパー（店長）	単価の動き	・百貨店閉店の影響からギフト関連は好調で推移したが、クリスマス関連商材の客単価が低下傾向にある。高級シャンパンは前年同様に動きが全くみられない。
		家電量販店（地区統括部長）	販売量の動き	・薄型テレビの売上は、相変わらず好調であるが、パソコンや冷蔵庫といったその他の大型家電の需要が悪く、全体としてはほぼ横ばいの状態である。
		乗用車販売店（従業員）	お客様の様子	・エコカー減税の延長検討の報道を受けて、様子見の客が増えてきており、売上があまり良くない。前年よりは良くなっているが、厳しい状況に変わりはない。
その他専門店〔ガソリンスタンド〕（経営者）		単価の動き	・依然として、車に関する高額商品が全く売れない。	

	一般レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・ビジネス客、観光客ともに来客数が回復しない。唯一、中国とシンガポールからの観光客が増加していることから、前年並みの売上は何とか確保できている。
	スナック（経営者）	来客数の動き	・今月前半はあまり客足もなく、今年も厳しくなることを見込んでいたが、月半ばを過ぎてから、忘年会などで客の動きがみられるようになり、後半は良くなってきた。
	観光型ホテル（経営者）	競争相手の様子	・米国の大手金融機関の破たん以降、観光客が大きく減少している。平日の入込が前年からやや悪くなっているが、休日前日の入込は良く、当ホテルも同様の傾向にある。景気低迷により、安近短傾向が強まっていることから、札幌圏を始めとした道内マーケットを対象とした地域間競争が激しくなっている。
	タクシー運転手	販売量の動き	・今月の前半は伸び悩んでいたが、後半になると雪が多く降ったことから、売上が伸び、前年並みに近い売上となった。ただ、3か月前と比べると、売上は約3%減っている。昨年が前年比で7%落ち込んでいたこともあり、全体としては変わらない。
	タクシー運転手	来客数の動き	・相変わらず電話注文が減少しており、来客数も減少している。
	通信会社（社員）	販売量の動き	・格段に販売量が増えたという実感はないが、新しい価格帯でのサービスの提供が始まり、今まで無関心だった世帯からの問い合わせが増えている。契約につながる事例も増えており、生活防衛のためにはサービス変更も積極的に行うという世帯が多くみられる。一方で、支出増には相変わらず警戒感が強い。
	観光名所（役員）	来客数の動き	・韓国やマレーシアなどからの外国人観光客が好調なことから、国内客の減少を穴埋めする形となっているが、依然として来客数が前年を下回る傾向が続いている。
	その他レジャー施設（職員）	販売量の動き	・従来、この時期は土日の予約がすぐ一杯になっていたが、単価が高いためか、今年はすぐには埋まらなくなっている。リピート客の利用頻度も低下している。
やや悪くなっている	商店街（代表者）	お客様の様子	・歳末にもかかわらず、来客数が非常に少なく、本当に必要な物しか買わない。多少ディスカウントしたくらいでは振り向いてくれない。ただ、外国人観光客が来店して、多少は買物をするので若干救われている。
	商店街（代表者）	お客様の様子	・客の動きをみると、とにかく安い物を求めている。また、買物の量自体も少なくなってきた。
	百貨店（売場主任）	来客数の動き	・今月の歳暮の売上は前年を上回っている。衣料品関係は、婦人服でジャケットやコートに動きがみられるが、単品のニット、セーターの動きが厳しい。また、フォーマルでは特需があった。一方、紳士服のビジネス関連に関しては非常に厳しい状態にある。クリスマスギフトに関しては、単価の低下がみられた。
	スーパー（店長）	単価の動き	・客単価、商品単価ともに、前年比95%を下回る動きとなっており、単価の低下に歯止めがかからない。
	スーパー（企画担当）	単価の動き	・既存店の来客数が前年を下回っていることに加え、ここにきて客単価の低下が激しくなっており、利益の確保が困難になっている。
	スーパー（企画担当）	単価の動き	・来客数はやや戻ってきているが、必要でかつ安い物でないと買わないという傾向が依然として強く、客単価は前年比で低下傾向が続いている。豆腐、もやし、納豆、こんにやくなどの買上動向をみても、節約志向が緩んできたという実感は全くない。
	スーパー（役員）	単価の動き	・12月に入り、前半2週は客単価が前年比97%台で推移した。現時点では、前年比100%を超えるところまで回復しているが、売上については前半の落ち込みを回復できていない状況にある。商品単価が5ポイント低下し、買上点数が5ポイント上昇する状況に大きな変化はみられないが、前半2週は相当な買い控えが起きていた。
	コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・ボーナス支給日以降の売上の伸びが前年よりも鈍化している。
	コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・より安い商品の販売量が増加している一方で、客単価の低下が加速している。特にボーナス支給日以降は、前年よりも2%ほど低くなっている。

	高級レストラン (スタッフ)	単価の動き	・来客数は前年比で横ばいであるが、客単価が前年比で2.5%低下しており、売上も前年比で2.5%の減少となっている。クリスマス期間には、期待を込めて高単価の特別ディナーメニューをそろえたが、目標通りにはいかず、デフレの影響を感じる。
	高級レストラン (スタッフ)	来客数の動き	・デフレを反映して、クリスマスディナーは客単価、来客数とも前年を下回った。12月全体では、週末は混雑したが、平日の予約が少なかった。
	観光型ホテル (スタッフ)	単価の動き	・今年1年、宿泊客の消費金額は下落続きであった。買物も低価格商品に集中しており、販売量はあるものの、売上は落ち込んでいる。
	旅行代理店(従業員)	お客様の様子	・景気低迷の影響から、年末年始も客の巣ごもり傾向が強い。また、単価の高い年末年始を避けて、比較的単価の安い1月の3連休に客が流れているため、売上も増えていない。一方、インターネットを通じた販売は依然として堅調である。
	旅行代理店(従業員)	販売量の動き	・一部の季節商材の販売量は前年並みかそれ以上となっているにもかかわらず、全体の売上は減少している。宿泊商品については、当店の取扱が減っているだけではなく、宿泊先そのものが空いている状況である。
	観光名所(職員)	来客数の動き	・先月と同様に、国内客、海外客とも、利用者が減少している。国内の景気低迷が要因として挙げられる。一方、海外客については、中国人客による利用が増加傾向にある。
	美容室(経営者)	販売量の動き	・商品売上が前年よりも15%程度減少している。安くても当面必要のない物は買わない傾向が顕著に表れている。
	その他サービスの動向を把握できる者[フェリー](従業員)	来客数の動き	・例年であれば、年末に向けて輸送量が増加するが、今年は減少傾向にある。
	住宅販売会社(従業員)	単価の動き	・顧客からの商品に対する値下げ圧力が強くなってきている。住宅のような高額商品はデフレの影響を受けやすいため、事業収益に悪い影響を及ぼしている。
悪くなっている	スーパー(役員)	お客様の様子	・お金がある時にしか客の消費が伸びない。毎月25日の給料日になるとATMの前に行列ができるが、当社の売上が伸びるのは25日だけで、月が変わると売上が前年を下回る状況が続いている。
	観光型ホテル(経営者)	単価の動き	・安価な宿泊プランの人気が高いことに加えて、宿泊客の館内での消費単価も引き続き低下傾向にある。
	旅行代理店(従業員)	販売量の動き	・国内旅行、海外旅行とも法人需要が壊滅的な状態にある。また、海外旅行については、個人客の取扱人員数が前年を10%上回っているものの、売上は前年を47%下回っている。パッケージ商品については、前年を10%下回っている。一方、業務性商品については堅調であり、前年を5%上回った。
	旅行代理店(従業員)	来客数の動き	・9月から来客数が減り始めている。前年比の動きをみると、9月が87%、10月が85%、11月が73%となっており、低下傾向が顕著である。問い合わせや申込の電話も少なく、11月に引き続き、残業がほとんどない状態にある。1日の受注額が過去最低を記録した日が見られるなど、底が見えない様相を呈している。
	タクシー運転手	来客数の動き	・12月は1年間で最も忙しい稼ぎ時だが、今年は前年よりも売上が10%近く減少している。
	住宅販売会社(経営者)	販売量の動き	・全国の住宅着工数が、12月時点で前年から30%のダウンが見込まれるなか、北海道では全国を上回る40%のダウンが見込まれている。
	企業動向関連	良くなっている	-
やや良くなっている		金属製品製造業(役員)	受注量や販売量の動き
	金融業(企画担当)	それ以外	・景気対策の効果が続いている土木建設業、家電販売、乗用車販売は堅調であるが、雇用環境、所得環境が厳しいことから、住宅建築、観光業、スーパー・百貨店業界は不振が続いている。総じてみれば、持ち直しているのは一部の業界にとどまる。

	その他サービス業〔建設機械レンタル〕（総務担当）	受注量や販売量の動き	・受注額の前年比でのプラス幅が3か月前よりも拡大している。
変わらない	食料品製造業（役員）	受注量や販売量の動き	・受注量、販売量ともに横ばいで推移しており、大きく変わらない。
	家具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・一般家庭用の家具は低位安定しているが、法人需要は極端に低迷している。
	輸送業（営業担当）	取引先の様子	・例年、年末は牛乳の流通がだぶつき気味となるが、今年は各乳業メーカーで、チーズや生クリーム等の製造機器が新增設されたこともあり、順調に推移している。
	司法書士	取引先の様子	・土地価格の下落により、売手サイド、買手サイドとも取引に消極的である。景気の悪化とともに不動産取引は下向き傾向となっている。
	その他サービス業〔建設機械リース〕（支店長）	取引先の様子	・土木建設業は旧政権の補正予算に伴う特需があったが採算性が悪く、売上にあまりつながっていない。一方、農業は畑作が不良だった割に悲壮感がみられない。
やや悪くなっている	その他非製造業〔鋼材卸売〕（役員）	取引先の様子	・ここにきて取引先の大物件が途切れ、仕事量が減少したため、鋼材の購入量を抑えている。価格上昇等の外的要因がない限り、こうした傾向は続く。
	通信業（営業担当）	取引先の様子	・投資が伴う案件に対する客の様子は、極めて慎重であり、中止、延期となるものが多い。また、当社に対して、値下げや事業所閉鎖に伴うサービス解除の話が散見される。
	司法書士	取引先の様子	・住宅着工数及び土地取引の減少、物品などの販売不振等により、個人経営の店や規模の小さな企業が廃業に追い込まれている。
悪くなっている	その他サービス業〔ソフトウェア開発〕（経営者）	競争相手の様子	・人余りがひどくなってきている。周囲では年明けから仕事が空きそうだという話も急が増えている。
	食料品製造業（団体役員）	受注量や販売量の動き	・先行きへの厳しさから、受注の少量低価格化が進んでおり、年末の繁忙期にもかかわらず、休日や残業で工場を稼働させる企業が少なくなっている。業界では、およそ8割の企業で、売上が前年を10～15%下回っている。
	建設業（従業員）	競争相手の様子	・民間の建築工事発注は皆無であり、公共の建築工事発注も期待できない。建設会社への見積照会もほとんどなく、工事費決済が予定される年末または期末に向けて、建設関連企業の倒産が多くなるのが心配される。
司法書士	取引先の様子	・例年みられるような、年末の駆け込みでの不動産売買の登記は今年は全くみられなかった。また、解散する会社法人が例年に比べて多い。	
雇用関連	良く なっている	-	-
	やや良く なっている	-	-
変わらない	求人情報誌製作会社（編集者）	雇用形態の様子	・農閑期ということもあり、地元での求人数は微減傾向だが、求人全体に影響を及ぼしているほどではない。ただ、正規雇用の求人は減少している。
	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・依然として、コールセンターの求人数が増加している。また、前年激減していた道外からの業務請負の求人も若干ではあるが戻りつつある。ただ、前年割れしている業種もまだまだ多く、全体的に状況は変わっていない。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・11月の有効求人倍率は、0.36倍で前年を0.05ポイント下回り、13か月連続で前年を下回った。新規求人数は増加したが、月間有効求人数は前年を下回った。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は前年から3.3%増加し、21か月ぶりに前年を上回った。月間有効求人数は前年から2.1%減少し、37か月連続で前年を下回った。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・11月の新規求人数が前年を5.1%下回った。また、求人倍率は横ばいで推移しているものの、29か月連続で前年を下回るなど、依然として厳しい雇用情勢が続いている。

	職業安定所（職員）	求職者数の動き	・11月の新規求人数は前年を7.6%上回った。新規求職者数は前年を7.5%上回った。また、月間有効求人倍率は0.39倍であり、前年の0.40倍を0.01ポイント下回った。
	学校〔大学〕（就職担当）	求人数の動き	・採用形態の多様化により、例年9月以降は秋採用の求人が相当数あったが、今年の秋採用は各月とも前年の半数にとどまっている。
やや悪くなっている	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・企業の中途採用ニーズは低下傾向にあり、求人の手控え感が強くなっている。人材派遣のニーズに関しても、契約更新の中断と合わせて新規の派遣ニーズが減少している。特に販売関連では、例年、年末に大量の人材派遣ニーズが発生するが、今年は前年比で大幅なマイナスとなった前年並みにとどまるなど、厳しい状況が続いており、企業の業績低迷が継続している。
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・例年12月は求人の動きが鈍いが、今年はそれにも増して厳しい。求人広告の売上は、前年比72.4%となっており、3年前からは半減している。11月に前年比90%と持ち直したかに見えたが、12月に入り、再び大きく減少しており、どの業種も軒並み大幅に減少した。
悪くなっている	-	-	-